

# 目の大切さを実感する 「眼科検診体験会」

5月31日、自民党本部で眼科医療政策推進議員連盟主催の「目の大切さを実感する眼科検診体験会」が開催されました。眼底検査や眼圧検査などの検診を受け、眼科検診の重要性を体感しました。



多くの眼科医や視能訓練士が参加して検査を担当した



司会を務めた井上信治眼科医療政策推進議員連盟事務局長



眼科医療政策推進議員連盟の井上信治事務局長の司会でスタートした体験会。初めに、同議員連盟の田村憲久会長は「日本の高齢化に伴って、白内障や緑内障、加齢黄斑変性などさまざまな目の病気が増加している。目の病気が早期に発見し、適切な治療を施すことで、進行を遅らせることが可能になる。本日は自民党本部内で眼科検診の体験会を開催する。検査を受けて自分の目がどんな状態なのかを知ってほしい」とあいさつしました。

そして、公益社団法人日本眼科医会の高野繁会長は「失明の原因となる主な病気には、緑内障と糖尿病網膜症の二つがある。

どちらも初期の段階ではほとんど自覚症状がなく、自覚症状が出た時にはかなり進行している。定期的に眼科検診を受けて、早期発見・早期治療を」と訴えました。

また、竹下巨総務会長は「後に初代スリランカ大統領を務めたジャヤワルダナ財務大臣は、昭和26年（1951）のサンフランシスコ講和条約の中で、憎しみは憎しみによって止まず、ただ愛によってのみ止む」という仏教の言葉を引用して、日本に対する賠償請求を放棄する演説を行った。そして、ジャヤワルダナ氏は、

1996年の死去に際し「片目はスリランカ人に、片目は日本人に」と遺言を残し、実際に日本人に角膜が移植された。また、日本はスリランカから多くの角膜の寄贈を受け、目の不自由な多くの日本人が救われている。講和条約の演説とともに、本当に感謝の気持ちでいっぱい。この眼科検診体験を通して、目の大切さを知っていただきたい」と語りました。

検診では、眼科医療支援車両「ビジョンバン」が登場し、車内で視力、眼圧、眼底検査などの眼科検査を行いました。また、さまざまな眼科検査機器が設置された党本部内のコーナーでは、多くの国会議員が検査を受け、目の健康について関心を高めました。

検診を終え、結果を知らされた竹下総務会長は「年相応ですと言われほっとした。目の病気は重症化すると、治療が難しくなり費用もかかる。眼科検診でできるだけ軽度のうちに発見して対処することが大切だと改めて実感した」と述べました。



田村憲久眼科医療政策推進議員連盟会長



竹下巨総務会長



高野 繁  
公益社団法人日本眼科医会会長



左から、ビジョンバンの車内で検査をする竹下総務会長、井上事務局長、河村建夫衆議院議員



視力検査を受ける櫻田義孝衆議院議員



屈折検査や眼底検査を受ける国会議員